

『歯育て健診』で早期発見、低年齢児治療0
を目指して！！

○太田 由美

医療法人 たかかぜ歯科

【概要】長崎県における1.6歳児、3歳児のう蝕有病者率は全国ワースト上位にある。

そこで長崎市が行っている取り組みが『歯育て健診である。』1.6歳児健診終了時に健診などが無料の受診券を配布している。

う蝕罹患率1.6歳児3.1%→3歳児24.6%とこの1年半で8倍に増加する現状をくい止めるため、健診受診率の向上、かかりつけ歯科医を持つ幼児の増加、フッ化物利用の推進を目的として行われている。

【症例】初診日H20.2.21 1.6歳 男児

1.6歳児健診にてう蝕有り。歯科受診を勧められる。
DBA | ABDにC2が認められる。

低年齢児治療のリスクを母親へ説明、相談の結果、今すぐに治療は行わず、進行抑制を目標に進めていく事となった。

食細く、食事回数が多い。授乳もある為、間食、ワンタフトブラシの指導を徹底して行い、サホライド塗布は2週間ごとに繰り返し行った。フッ化物の利用も積極的に行った。

進行は抑制されているが、2.8歳時 |B感染根管処置を行い、他部位の治療も行った。

その後、治療の必要もなく健診時は必ず、視診だけでなく、ダイアグノデントやレントゲンでの内部進行状態の確認も行っている。

7歳時前歯の交換期を迎え、6歳臼歯のシーラントも行った。

【考察】1.6歳児に発見された臼歯のう蝕の進行を抑制出来た事は、患児及び保護者への定期的な口腔衛生指導の成果として評価できると考える。

現在9歳。上下2×2反対咬合の為、口腔周囲筋の機能の正常な発達に注意して、4ヵ月ごとの検診を行っている。

今後、健康な永久歯列完成を目指して管理を続けて行きたい。